

令和5年度第5回（第10期第4回）国分寺市環境審議会議事要約

日 時 : 令和5年12月20日（水） 午前10時～正午
会 場 : リオンホール

○会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第五次地球温暖化防止行動計画（市役所版）の検討について
 - (2) 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について
3. その他
4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長，大野副会長，大友美輪委員，益子美賀委員，和田淳委員，
竹内大悟委員，六車貴美子委員，巻田清委員，伊藤皓子委員，三浦貞夫委員

出席委員 : 10人

欠席委員 : 2人

傍聴者 : 1人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課（部長，課長，係長2人，担当3人）

配布資料

資料1 第五次地球温暖化防止行動計画（市役所版）における目標，取組及び推進体制（案）

資料2-1 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について

資料2-2 環境に関する次世代アンケート調査 結果報告書（速報）

参考資料 第五次地球温暖化防止行動計画（市役所版）における温室効果ガス排出量の削減
見込量について

令和5年度第4回（第10期第3回）国分寺市環境審議会議事要約

1. 開会

●まちづくり部長あいさつ

まちづくり部長よりあいさつを行った。

2. 議事

●配布資料の確認

事務局より配布資料の確認を行った。

(1) 第五次地球温暖化防止行動計画（市役所版）の検討について

事務局より資料1を説明

中西会長：計画策定までのスケジュールを説明してほしい。

事務局：本日いただいた意見を踏まえ計画案を作成し、次回2月の審議会で再度審議いただき、答申をいただく。その後、答申いただいた内容について、庁内で検討し、3月中旬に計画を決定したいと考えている。

和田委員：資料1の5頁、施策の指標の表で「※」に対する注釈の説明がない。個人的に説明はなくてもよいと思うが、説明を加えるか、削除してほしい。

事務局：「※1」は、特殊車両をのぞく旨の説明、「※2」は、現状は古い値となっているが今後2021年度の値を記載する旨の説明を入れていたつもりであった。注釈が抜けていたので適宜修正する。

中西会長：資料1の5頁、施策4職員の率先行動だけ囲みをつけている理由は何か。

事務局：施策1から施策3までとは異なり、温室効果ガスの削減量の数値自体に直接影響を与えるものではないため、囲みをつけて差別化している。施策4については、進捗管理の指標を設定できないが、職員の心構えや意識が施策にも影響してくる基本の部分だと考え、施策として位置づけている。

中西会長：最終的な示し方は事務局に任せるが、説明がなく、囲みが気になる可能性がある。

大野副会長：資料2の4頁の「ZEB Ready」とは何か。

事務局：ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング (Net Zero Energy Building)、通称ZEBに定義される1つの分類である。建物の省エネルギー（以下、省エネ）化や再生可能エネルギー（以下、再エネ）の導入によって、エネルギーの消費量実質ゼロを目指した建築物である。ZEBはエネルギー消費量の削減レベルに応じて、4段階に分かれている。「ZEB Ready」は省エネによって、従来の建物で必要なエネルギー量から50%削減する建築物のことをいう。新庁舎では太陽光パネルが設置されるが、「Nearly ZEB」を達成するまでには至らない。省エネ、太陽光発電機器の設置に加え、再エネ由来のエネルギーを購入することで温室効果ガス排出量をゼロとすることを目指していく。

中西会長：ZEB関連は、用語解説がほしい。

竹内委員：中期目標の削減量について、参考資料の中で再エネ導入率の割合によってケース1とケース2に分かれているが、これだけだとケース2の方を目指すべきだろうと思う。現実的でないと判断してケース2を目指さないとするのか、説明してほしい。

しい。

事務局：具体的に確定できるところまで庁内で議論が進んでいるわけではない。再エネ発電している電力会社との契約や、再エネの水準をどこまで要求できるか議論しており、それを踏まえて20%か50%か、検討している状況だ。策定するからには目標達成しなければならないため、検討の目途がついたら示したいと考えている。

竹内委員：検討中とのことで判断材料が無く、審議会でも目標に対して議論することができない。現状どの程度までいけるか分からなく、議論ができないなら、この会議はもったいないと思う。

中西会長：審議会としてはなるべく高い数値を目標とすべき、というのが答えだと思う。

事務局：既存施設への再エネ電力の切り替えに向けてどのくらい確保できるかというところまで検討している。並行して、具体的に達成目標を検討していく。

大友委員：資料1の1頁で下段「51.1% “削減”」, 「45% “削減”」を追記。2頁の施策4で「検討や行動 “を”」に修正。4頁の取組2-1で、「ZEB Ready に近づける」とあるが、既存施設の改修の際にNearby ZEBの達成は難しいのか？

事務局：Nearby ZEBを達成するには再エネの導入が必要になってくる。再エネ設備で一番考えられるのは太陽光発電機器であるが、既存施設には古い施設が多く、現状の一般的な設備であると、導入可能な施設は限られてしまう。太陽光発電設備の技術開発の動向も注視する必要もあり、将来を見据えたときに必ずしも現在の段階でNearby ZEBを進めていくのが良いともいえないと考えている。ただ、施設改修の際には、再エネ設備等の導入を検討したいと考えている。

中西会長：資料1の4頁ZEB Ready基準を満たす公共施設が3施設とあるが、具体的施設は何を想定しているか。

事務局：既存施設ではプレーステーションという施設がZEB Readyの認証を取得している。そのほかの2施設では、新庁舎と現庁舎跡地にできる複合施設を想定し、計3施設としている。現庁舎跡地にできる複合施設は、まだ設計前であるが、エネルギー効率の高い建物を目指すべきだという考えの下、想定施設に含めている。

竹内委員：施策2の取組2-5の具体的に想定している取組を教えてください。国産材の利用なのか、どのくらいの量なのか。また、キャップ&トレード等の取組にも発展できそうと思うが、そういう仕組みや導入量はどれくらいを想定しているか。

事務局：仕組みはまだ十分に検討できていないところだが、想定としては、多摩産材の使用や、森林資源をもつ姉妹都市や災害協定を締結している自治体等との連携により、公共施設への当該産木材の導入などを考えてる。導入量は今後検討していく。

竹内委員：森林のCO₂吸収量は、全体にみると少なく、計算上有効な値にはならないかもしれないが、他市の木を木材として国分寺市に持ってきて、その分他市の森林に植樹を行い、その分のCO₂吸収分を国分寺市が買い取るという交渉ができると思う。

事務局：市域版計画案においても、カーボンオフセットを施策に位置付けている。木材でCO₂の貯蔵もできるようなので、それも含めて検討したいと考えている。

竹内委員：数字の見える化ができると良い。

中西会長：国分寺市が奥多摩などと連携することは考えているか。

事務局：カーボンオフセットは、友好都市等との連携を検討している。木材利用については、

整備だけでなく、広い範囲で検討ができると考えている。また、現在、友好都市である長野県飯山市の木材を新庁舎に使えないかと検討を進めているが、飯山市産はあまりなく、長野県産という単位での供給となってしまうようで、そこが課題である。国産材供給が少なく、入手が難しいと言われているが、だからこそ早くから供給先を押さえることが重要であるとする。計画に明記することがその第1歩として重要となる。並行して調整していく。この点は今までの市役所版とは違う点である。

中西会長：取組2-5は、今後の検討事項も多いと理解した。

伊藤委員：再生可能エネルギーの導入について、既存施設の導入はどのくらいか。

事務局：現在、太陽光発電施設を導入済の施設は3施設である。また、再エネ由来電力を購入している施設が1施設ある。

伊藤委員：2030年度までに目標を達成するためには、何施設に再エネを導入しないといけないのか。

事務局：現状で具体的な施設数は算出していない。太陽光発電設備よりも再エネ由来電力の購入を優先に考えている。金額次第ではあるが、導入されれば一気に再エネ電力購入が進むと考えている。

六車委員：省エネの取組としていわゆる「紙・ごみ・電気」の3本柱になると思うが、紙とごみの部分の記載が薄いようだが、記載予定はあるか。

事務局：現行計画では、職員が行うべき行動として細かく記載していたが、次期計画案では施策4の職員の率先行動のところでまとめて記載したいと考えている。

六車委員：もう少し具体的に書いてほしい。

中西会長：ごみ削減についても、意識啓発のところに少し入れてはどうか。

三浦委員：施策3の取組3-1に水素活用について言及してほしい。水素バス等増えてはきているが、後押しになると思う。

事務局：ご指摘の点について検討する。

六車委員：2030年度までの目標達成のためには、個人的に水素活用については疑問がある。そのため外していたのだと思った。導入するにしても、導入台数など具体的な数字が入っていないと説得力がない。

三浦委員：都庁や都の立川合同庁舎でも水素自動車を導入しており、他自治体でも導入しているところが増えている。水素ステーションの数も増えている。電気だけに頼らない方が、行政としても確実性が増すと思う。

（2）第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について

事務局より資料2-1、資料2-2を説明

中西会長：次世代アンケート調査と第2回、第3回市民ワークショップについて説明していただいた。これらの結果について質問を受け付ける。

大友委員：資料2-1の2頁について「2050年のありたい未来の環境の姿」から「2030年のあるべき未来の環境の姿」の方向に矢印が引かれている理由は何か。

事務局：2050年の最終的な目標から逆算して考えたときに、その中間の2030年までにあるべき環境の姿という視点で将来像を考えるためにワークショップを実施した。その

ため、「2050 年→2030 年」という表記にしている。

大友委員：資料 2-2 について、環境に関心ある子どもたちが思っていた以上に多いという印象を受けた。そこで気になった点は、アンケートの 16 頁の自由回答「市の取組自体について知らないことが多く驚かされました。もっと取組のことを地域全体に広めれば参加者も自然と増えるのではないかと思います。」とある。環境に関心のある子どもに対して、環境を知る場を増やせば意識も高くなって、より環境について学べると思う。例えば、学校を通して市民ワークショップへの参加を呼び掛けたり、自然に触れる体験型イベントを増やしたりしてはどうか。

中西会長：そのとおりだと思う。自由意見において、「アンケートを通じて初めて市の取組を知りました」という意見もあった。子供たちがこうしたことを知る機会が少ないと感じる。環境基本計画において啓発活動をいかに増やしていくかという、啓発に関する施策の参考になるかと思う。

和田委員：次世代アンケートの結果がどのように計画に反映されたのか、次世代の人たちに理解してもらう必要がある。2030 年、2050 年に社会の主役になっている今の子どもたちの意見が市の計画のどこに反映されたのか知ってもらい、子どもたちに責任感を持ってもらうことがとても大切なのではないかな。

中西会長：基本計画の参考資料編に入れるのかどうか、また、市のホームページに掲載する、シンポジウムで発表する等、いろいろな発信方法があるので、何らかの形でアンケートの意見を反映した旨を記載できればいいと思う。

事務局：今後、学校に出向く機会があれば、取組の成果を伝え、またアイデアをいただくような場を作れたらと思う。

中西会長：資料 2-2 の 7 頁のマトリックス図において、「③いろいろな種類の生きものが生息・生育している」が分類Ⅳで平均よりも低い評価になっているのが、生きものの専門家としては残念に思う。虫が嫌いという子どもが増えていると思うが、生きものと触れあう機会を増やすべきと感じた。

竹内委員：3 点ある。1 点目は、アンケートの並びのことで、資料 2-2 の 3, 8, 9 頁のグラフの並び方は選択肢順ではなく、集計結果の多い順に変えた方が見やすい。このアンケートから何を読み取るか分かりやすくするためにも、その方が良いと思う。2 点目は、7 頁のマトリックス図について、満足度、重要度の平均値 0.65, 1.42 と相対的に高いので、マトリックス図の左にいくほど低いという評価の解釈はミスリードである。ゼロ以下の数値になっていない結果で、半数以上の子どもが満足度、重要度ともに高いことを前提とするべきであり、「低い」という表現は誤解させてしまうので、避けた方がよい。3 点目は、全体的なアンケートの印象としてポジティブな回答が多いが、回答した 20%はそもそも環境に関心がある子どもとも捉えられるため、ポジティブな意見が多くなると考えられる。それ以外の回答していない 80%は関心がないと置き換えてもおかしくはない。そうしたことを踏まえて、どこにニーズがあるかの判断は慎重に分析をするべきだと感じた。また、環境に興味がある子どもの中にも、ポイント制やゲーム、アプリを使ってラフに参加できないか、という意見もあり、消極的なところがあるということを感じた。環境施策は短期的な利益を出しづらい側面もあり、本質的には金銭的な対価を求めるものではなく、国分寺の自然の魅力を計画段階からしっかり作っていく必要がある。計画の中で、国分寺市の自然の魅力について、可視化、体系化、具体的さを意識して、面白く個性的なものにすることが重要である。そのようなことを踏まえて、アンケートの解釈の仕方を次回に報告していただけるとありがたい。

中西委員：アプリの話は今の若者の本音だと思う。

巻田委員：資料2-1の2頁で、2050年のありたい未来の環境の姿に「こくベジのある国分寺」とある。2040年頃から人口が減少していく予想があり、現在も高齢化に伴う農家の後継者問題がある中で、農業を継いでもらうには、可能な限り市のバックアップがなければ難しいと感じた。

中西会長：農業人口の減少も課題の一つである。こうしたことを読み取った上で、施策に結び付けなければならないと思う。次回以降の審議会でも、これらを参考資料に議論しても良いかと思う。

3. 事務連絡

事務局：本日の議事要約は後日ご確認をお願いしたい。次回令和5年度第6回環境審議会は2月29日（木）で予定調整の連絡をする予定だ。次回はゼロカーボン行動計画と第五次地球温暖化防止行動計画（市役所版）の答申をお願いする。

4. 閉会

中西会長：令和5年度第4回国分寺市環境審議会を閉会する。